

平成28年度市町村教育委員会アクションプラン・計画等概要

(大分教育事務所)

No. 1

市町村名	プラン・計画等	目標	行動計画	H28達成指標
		<p>1 全国学力学習状況調査において、全ての教科で全国平均を超える(平成27年度 未達成のために再設定する)。 2 大分県学力定着状況調査において全ての教科で偏差値50を超える(平成27年度 未達成のために再設定する)。 3 臼杵市基礎・基本調査において、全ての教科で期待正答率を超える(平成27年度 未達成のために再設定する)。 4 全ての学校において、各学校ごとの目標達成に向けて組織的に授業改善に取組む</p>	<p>1 授業改善に関する行動計画 (ア) 学校全体で取り組む授業改善に向けて ・「3・9チェックシート」を活用した互見授業、授業研究の推進、管理職による授業観察を毎日実施する。また、授業後の指導、助言を行うことで、日ごろから新大分スタンダードを意識した授業実践を積み重ねていく。 ・授業改善の5点セットに基づいた各校独自の授業スタイルを確立し、管理職がPDCAサイクルを管理する。 ・授業力向上プロジェクト(2018)の中の「授業改善に向けた目標設定シート」に基づく、授業実践への指導・助言を行う。また積極的に、市教委指導主事、学力向上支援教員の要請訪問を行い協議を活性化させる。 (イ) 習熟の程度に応じた指導の充実に向けて(補充指導の充実を含む) ・習熟度別指導推進教員2名で中学校数学・中学校英語の基礎的・基本的な学力の定着を推進していく(西中学校に2名配置)。 ・放課後や集会の時間などを有効に活用した補充指導を好事例として紹介し、各学校での実践につなげていく。 (ウ) 司書教諭等を核とした学校図書館を活用した指導体制の確立に向けて ・第二次臼杵市子ども読書活動推進計画～うすき読書のまちづくりプラン～の策定、および実施。他機関との連携 ・タテ持の実施予定⇒西中学校にて実施予定(数学、英語) ・他校と連携した教科部会の実施⇒小中一体教育学力向上部会の連携強化 (エ) 市町村の教科部会を活用した授業改善に向けて(特に中学校) ・臼杵市教委との積極的な連携、協力(中教、中理に重点)部会に指導主事参加 ・大分大学教育学部との運動(中教・中川裕之准教授、中理・三次徳二教授) ・中学校教科部会の活性化…日常の授業交流(習熟度別指導推進教員の活用) 2 学びに向かう学校づくりに関する行動計画 (幼保小の連携・小中連携を含む) ・幼保小連携協議会の活性化(臼杵市教育研究協議会幼小連携部会との運動) ・臼杵市全体の幼児教育方針(ガイドライン)の策定、実施 3 保護者・地域と連携した学力向上の取組に関する行動計画 ・うすき土曜ふれあい学校を6回実施することを通して、地域との協働を充実・土曜教室および、夏休み、冬休みのチャレンジ教室を開校し、中3を対象に補完的な学習を行い、学力保障、学力向上の一助とする。 ・小中一体教育の構築(H28) 小⇄小の連携強化 小⇄中⇄中の連携の深化 (H29は「定着・発展」) 4 その他 ・学力向上支援教員・習熟度指導推進教員の指導による授業実践交流会の実施。(教職経験年数10年以内の先生方を対象) ・授業の達人に学ぶ(新事業)⇒筑波大学附小学校の青木伸生先生(国語)、山本良和先生(算数)による特別授業および授業研究会の開催</p>	<p>1. 児童・生徒の学力に関する目標 ・全国学力学習状況調査において平均正答率が全国平均正答率を上回る学校100%(全19校) ・大分県学力定着状況調査において全ての教科で偏差値50を超える。 ・臼杵市基礎・基本テストにおいて、全ての教科で期待正答率を超える。 ・下位層の児童生徒の割合 小学校 6% 中学校 8% 2. 学校等が抱える組織的・構造的課題に関する目標 ・各学校の目標達成に向けて組織的に授業改善に取り組んだ学校 100%(全20校) ・「授業改善シート」を活用した管理職の授業観察(ほぼ毎日 100%) ・「新大分スタンダード」の取組…9観点 1学期末85% 2学期末100%</p>
臼杵市	<p>心身の健康のために運動、食事、睡眠を大切にす 「運動大好き 臼杵っこ体力向上」 臼杵市の達成指標にそって、各学校で目標設定し組織的取組をおこなう ○各学校は平成27年度の結果を分析した上で、実態に応じた具体的な数値目標を設定して1校1実践を作成する ○数値が低い種目についての具体的な対策を入れる ○児童生徒の実態把握に基づき、適切な目標設定、着実な取り組み、調査結果を踏まえた改善を学校ぐるみで行い、PDCAサイクルを行う</p>	<p>児童・生徒の体力向上に係る市町村教育委員会や学校における行動 ・臼杵市体力向上の共通テーマにそって各学校の計画・実践 心身の健康のために運動、食事、睡眠を大切にす テーマ「運動大好き」臼杵っこ「体力アップ」 ○運動能力調査の組織的な取組～平成27年度の実態を把握し具体的な数値目標を掲げる。第1回体力向上会議において体力調査の実施方法、時期、行い方などの確認 ○体育専科教員活用推進校による授業モデルの提示や実践事例の公開 ○体育専科教員の学校訪問指導・優良事例の紹介「かむ・ためず・つなぐ」学習過程の実践・公開授業で、家庭と連携した体力向上のあり方を各学校へ発信 ○臼杵市体力向上会議の開催(授業研究) ○拡大体力向上会議の開催(養護教諭や栄養教諭との実践交流) ○小中一体教育の中での体力向上に向けた取組の推進 小⇄小連携によるスポーツ交流 ○ICT機器を活用した体育授業の実践・家庭と連携して、体力を支える食事、運動、休養の指導 ○栄養教諭による訪問食育指導○大分県一周駅伝選手による「臼杵っこ持久走教室」の実施(体育専科教員活用計画) ○推進校の体育の授業を担当し、全校的な体育授業の改善に努める。 ○体力向上会議に於いて情報発信</p>	<p>H28達成指標 ○運動・スポーツをほとんどしない児童・生徒の割合 小学校男子 5%未満 小学校女子 10%未満 中学校男子 3%未満 中学校女子 10%未満 ○運動好きな児童・生徒の割合 小学校男子 95%以上 小学校女子 95%以上 中学校男子 90%以上 中学校女子 80%以上 ○総合評価C以上の割合 小学校男子 80%以上 小学校女子 80%以上 中学校男子 70%以上 中学校女子 80%以上 ○健康でいるために運動・食事・睡眠が大切と答える児童・生徒の割合 小学校 95%以上 中学校 95%以上</p>	
	<p>目標</p>	<p>取組及び地域不登校防止推進教員の活用計画</p>	<p>取組 ＜計画・組織＞ ○地域不登校防止推進教員を中心に据え、生徒指導主任会に対して、情報発信できる場、時間を設定する。○各学校の不登校防止対策計画の策定指導 ＜未然防止＞ ○中1年生にQUを実施し、地域不登校防止推進教員と分析や対策を学級経営の聞き取りともに行う。 ○小中一体教育の推進により生徒指導や特別支援等の情報共有を密に行い中1ギャップを解消する。 ○ほっときんシート(FAX)を使って、各学校は欠席3日目に地域不登校防止。推進教員に連絡し、組織的対応を促す。 ＜学校復帰支援＞ ○地域不登校防止推進教員は、児童生徒、保護者に教育支援センターきずな、SC、福祉課と連携し、学校復帰の際の情報共有や寄り添い支援を行う。関係機関への連携や調整、学校へのアセスメントなどはSSWを中心に行う。 ○地域不登校防止推進教員の活用計画(拠点校) ・あったかハート0123の取組の定期的見直しを計画に入れる。・不登校の組織的対応を行うための実働チーム作り ・1人ひとりを大切にした学級の掲示物(ポトフォリオ)など組織的取組あったかハート0として、SSTや参加体験型授業の推進、指導・小中一体教育(東ブロック)で連携を行う ・小中連携シートの作成 ・学級担任との連携を取り、組織的対応を行う。福祉課との情報共有 ・教育支援センターきずなと連携した支援のあり方を検討する(教育委員会) ・臼杵市あったかハート0123を使って、各学校の不登校対策計画作成のための事前指導を行う・生徒指導主任会において、拠点校の取組を普及させるための場を設定する。 ・1人ひとりを大切にした学級の掲示物(ポトフォリオ)、QU検査の活用など組織的取組を行う。あったかハート0として、SSTや参加体験型授業の推進、指導 ・市教委主催の10年研で、講師として未然防止の学級経営について講義を行う。・小中一体教育の生活・生徒指導部会等において中1ギャップ解消の取組を行う。 ・必要に応じて、SSWによる見立て、アセスメント ・地域不登校防止推進教員は、午後教育支援センターきずなにおいて、定期的SCとSSWと福祉課との情報交換の場を持ち各校の不登校児童生徒の学校復帰支援を行う。</p>	
	<p>(不登校生徒数・出現率) ＜中中学校＞ 在籍数 1026 不登校数 15 出現率 1.46%</p> <p>＜小小学校＞ 在籍数 1789 不登校数 1 出現率 0.06%</p> <p>＜拠点校での出現率＞ 東中学校 1.42%</p>			

平成28年度市町村教育委員会アクションプラン・計画等概要

(大分教育事務所)

No. 2

市町村名	プラン・計画等	行動計画	
		行動計画	H28達成指標
臼杵市	組織力向上計画	<p>ア 学校評価の改善</p> <p>1. 「学校評価の手引き」を基に学校評価の指導を行うとともに、市教委による学校評価実施要項に従って、学校評価の在り方やより分かりやすい公表の仕方について指導し、取り組みの計画を提出させる。</p> <p>2. 重点目標は3つ以内に絞り込むこと及び学校の課題と一致させること、達成指標は可能な限り数値化等を行い、検証可能なものにする。重点目標達成に向けたPDCAサイクルを各種主要主任を中心に最低学期1回は必ず行うこと等の具体的な指導を校長会・教頭会・教務主任会等で実施するとともに、大分教育事務所と連携し、学校訪問の際に、上記の点について計画書のとおり実施されているか確認を行い、計画通りに実施できていない場合は、指導を徹底する。</p> <p>3. 4点セットの学期ごとの検証・改善の取組が、全ての学校で効果的に実施できるような様式作りについて、教育事務所の指導のもと作成を行なう。</p> <p>イ 学校運営体制の充実</p> <p>1. 年度当初の校長会・教頭会等で教務主任等主要主任の役割について周知、徹底を行い、全教職員には管理職が職員会議で周知する。</p> <p>2. 運営委員会、職員会議、主要主任が校務分掌表に適性に位置づけられるように指導を徹底する。</p> <p>3. 組織的な課題解決を進行管理する教務主任会議の実施</p> <p>4. 授業改善のための5点セットの全教員への理解促進と実働に向けた取組み</p> <p>ウ 学校・家庭・地域の協働の推進</p> <p>学校が自校の課題解決に向けて、学校評価の取り組み指標等を保護者や地域と共有し、「土曜ふれあい学校」や「小中一体教育」等の場を活用しながら、学校・家庭・地域が協働のもと、重点目標達成に向けて取り組めるよう、校長会・教頭会、「土曜ふれあい学校」担当者会等で指導を行なう。</p> <p>エ その他(小中一体教育の促進)</p> <p>臼杵市小中一体教育の実施(芯の通った学校組織の深化・充実)</p>	<p>・運営委員会を最低月2回は実施した学校100%</p> <p>・「8つの観点」学校自己評価シートについては、校長の自己評価が全ての項目がA評価である学校100%。</p> <p>学校評価に基づく改善策に関する家庭・地域との協議の実施率</p> <p>小学校50% (平成25年度7%) (平成26年度23%) 中学校50% (平成25年度0%) (平成26年度17%)</p>
	主幹教諭の活用計画	<p style="text-align: center;">活用内容</p> <p>(1) 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主幹教諭が学校運営をスムーズに行うために、十分なリーダーシップを発揮する。 ○運営委員会が組織的な学校運営のために効果的な機能。 <p>(2) 行動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ①校務分掌組織の構築 ②教育課程の作成、日課表の作成 ③運営委員会、職員会議の企画および運営 ④学力・体力向上の取組 ⑤学校評価、教育課程の評価および改善 <p>(3) 具体的な体制づくり</p> <p>(運営委員会 月3回 職員会議 月1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中一体教育における児童生徒の連絡協議会の開催 <p>(4) 主幹教諭の人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校長会、教頭会と連携を図り、主幹教諭の活用事例を研修に位置づけることで、ミドルリーダーの活用に向けた意識向上に努める。 ○臼杵市教務主任会議の中で、先輩主幹教諭による実践報告(職務内容や活動実績等)を行うことで、市内の教務主任の意識を高めていく。 	